
ある黒猫の独白

天川時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある黒猫の独白

【Nコード】

N2760F

【作者名】

天川時雨

【あらすじ】

雨の中、その黒猫は佇み、そして想う…

雨は降り続く。

まるでこの世の汚い物を洗い流すかのようなそれは、途切れることなく夜の闇に溶け込んでいく。

私はただ佇んでいた。

黒い毛で覆われた私の身体はしっとりと濡れ、光沢を持つ漆器のようであった。

ただただ、夜の闇の深い街角に、ひっそりと私は佇んでいた。

私は猫だ。

猫である私は、それらしく雨を嫌ってどこかの軒下に居座っていたら良いものを、自らこの泣き空の下へ這い出てきた。どうしてこんなことをしているのか、私自身にも実はよくわからなかった。ただただ無性に、この空の下に、雨に濡れていたかった。

私は目に雨粒が入るのも厭わず空を見上げた。闇の中に吸い込まれるような、落ちてゆくような、不思議な感覚。

あの向こう側に、行ってみたいものだな

私はそう独白した。

自由が欲しい、そう思うようになったのはいつからであったらうか。

一見自由に見える猫、しかし空腹や痛み、欲求や絶望と言う鎖から逃れることはできない。この肉体がある限り本当の自由など有り得はしないのだと、最近気が付いた。

肉体と言う鎖に繋がれた己を解放したとき、あの重い闇を含んだ雲の向こう側にも行けそうな気がする。

そんなことを思いながら、私はただ佇んでいた。

目を閉じると、堅い人工の埋め立てられた路を叩く雨音と、その湿った匂いが私の身体を包んだ。

どうやら私はまだ自由にはなれないらしい。

雨は降り続く…

(後書き)

感想等ございましたらよろしく願います m ((m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家なるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2760f/>

ある黒猫の独白

2010年12月1日09時15分発行